

普及課だより

No. 48

2019.1

〒440-0833 豊橋市飯村町高山 11-40

TEL : (0532) 63-3529 FAX : (0532) 63-7023

Web : <http://www.pref.aichi.jp/>

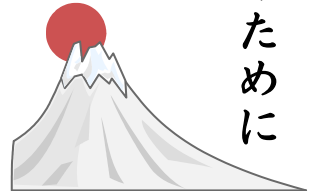
nourin-higashimikawa/higashimikawa-fukyu/

東三河農林水産事務所農業改良普及課
(東三河農業普及指導センター)

東三河地域の農業の維持・発展のために



課長 杉浦 英博



明けましておめでとうございます。日頃から愛知県政及び愛知県農業行政にご理解とご協力をいただき職員一同厚くお礼申し上げます。

新年の清々しい空気の中で今年一年の計画を立ててみえる方も多いと思います。昨年は7月末の史上初となる逆走台風12号、9月末の台風24号と東三河地域は大きな被害を受けました。被害を受けた皆様には心よりお見舞い申し上げます。現場に行くと欠株の多いほ場が散見され、今なお台風の影響が大きく残っています。台風後は暖冬でおだやかな晴天が続いたことから、秋冬野菜を中心に前進傾向となり市場価格は低迷しました。台風でこれだけ被害を受けたのに、なぜ市場価格がこれほど低迷しているのか。それは、暖冬というだけでなく、台風被害を受けていない国内新興産地の存在、価格の高騰を見越した商社による輸入、さらには少子高齢化に伴う需要の低迷といった社会的要因も考えられます。

東三河地域は豊川用水の通水を機に園芸産地として変貌を遂げました。昨年は豊川用水通水50周年の記念すべき年でしたが、半世紀を経た産地として新興産地から追いつかれる立場となっています。一方、本県は太平洋ベルト地帯の一部として商工業を含めた立地条件が良く、輸送機械を中心に製造品出荷額は長らく全国一位となっており、他産業と労働力競争が見られます。

こうした中で東三河地域の農業を維持・発展させていくにはどうしたらいいのでしょうか。東三河の農業は東京を始めとした京浜地帯への輸送園芸が中心です。産地としての規模拡大はほぼ限界に達しているものの、高品質な農産物を安定出荷できる産地として高い評価を得ています。この強みを活かすために、施設園芸では日進月歩で進歩している複合環境制御機器を用いてオランダに近い反収を上げることが目標となってきました。また、外食・中食産業の需要が増え、自然災害に左右されない安定的な出荷が求められています。自然災害の被害を最小限にとどめるための土壌改良や安定出荷のための技術確立が必要となっています。

農業改良普及課は今後とも関係機関と密接な連携を図りつつ、反収増加や安定生産に向けた研究会への参加や産地の維持・発展のための担い手作りなど、時代の求める変化に機敏に対応し、地域農業の発展に寄与していく所存ですのでよろしくお願いいたします。

農業経営士・農村生活アドバイザー・青年農業士の認定者紹介

農業経営士

【豊橋市】
西郷 和久
(露地野菜)



鈴木 章弘
(施設野菜)



中村 敏秀
(施設野菜)



外山 崇
(花き)



鈴木 豊
(露地野菜)



【豊川市】
平野 尋一
(施設野菜)



【蒲郡市】

尾崎 智彦
(果樹)



小嶋 丈宏
(果樹)



農村生活 アドバイザー

【豊橋市】
伊藤 めぐみ
(施設野菜)



伊藤 美紀
(露地野菜)



【豊川市】
岡田 育代
(花き)



【蒲郡市】
山本 ゆり子
(果樹)



青年農業士

【豊橋市】
石田祐也
(養鶏)



望月孝紘
(施設野菜)



長濱健作
(露地野菜)



【豊川市】
小林 博
(施設野菜)



中西 希一
(露地野菜)



【蒲郡市】
小林 生
(施設野菜)



小田 拓也
(果樹)



管内農業の話題

J A豊橋トマト部会が 天皇杯を受賞しました

第五十七回農林水産祭で、J A豊橋トマト部会が、最高位である天皇杯を園芸部門で受賞しました。農林水産祭は、国民の農林水産業と食に対する認識を深め、農林水産業者の技術改善及び経営発展の意欲の高揚を図るため、昭和37年から開催されている伝統ある式典です。過去一年間に全国各地で開催された農林水産祭参加表彰行事で農林水産大臣賞を受賞した五・二点から、7つの部門ごとに天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞の3賞が表彰されました。



天皇杯を受賞した大竹氏(左)と白井氏(右)

東三河水田技術研究会を 開催しました

12月6日(木)に東三河水田技術研究会を開催し、管内の農業者等39名が出席しました。本研究会は農業改良普及課主催の実証試験成果の報告の場で、本年度取り組んだ、飼料米「もみゆたか」の栽培試験と小麦「きぬあかり」の追肥試験の報告を行いました。

なお、農業総合試験場の研究員が、今後東三河地域で普及が見込まれる水稲「なつきらり」と「愛知糯一・二六号」を紹介、「本年度の夏季の高温や台風が水稲の収量・品質に与えた影響分析について説明しました。報告を受けて、実証は設置農業者からは試験成果への意見や、参加者から追肥実施の際の注意点を尋ねる質問がありました。

また、研究会当日には、県内の5品種の米を食べ比べる食味会も実施し、「なつきらり」が最も高い評価を受けました。「なつきらり」は農業総合試験場が育成した高温耐性品種で、来年度から東三河地域でも試験栽培が始まります。「なつきらり」のおいしさを実感し、栽培したいとの声が多く聞かれました。



研究会の様子

新しい技術の紹介

県育成カンキツ「夕焼け姫」 高品質果実生産を目指して

J Aひまわりみかん部会では、愛知県育成のカンキツ「夕焼け姫」が初出荷を迎え、外観・品質の高さから好評を得ています。

農業改良普及課では、更なる省力・高品質化を目指し植物生長調整剤「フイガロン乳剤」の利用について検討を行いました。

試験は、「フイガロン乳剤」二・千倍液を満開65日後と満開81日後に散布しました。その結果、作業時間は、従来のマルチ栽培に比べ70%削減でき省力になることがわかりました。

また、果実品質は、11月下旬に完全着色し無処理よりも高くなりました。しかし、マルチ栽培に比べると糖度はやや低く浮皮度も高くなりました。これは、試験中の降水量が8月中旬から9月下旬にかけて多く、マルチの無い試験区では糖度上昇の抑制と浮皮の発生を助長したと考えられました。

以上の結果から、「夕焼け姫」の高品質果実生産には、マルチ栽培を前提とし、降雨の影響を受けやすい園外周には「フイガロン乳剤」の散布が有効と考えられました。



「夕焼け姫」の果実